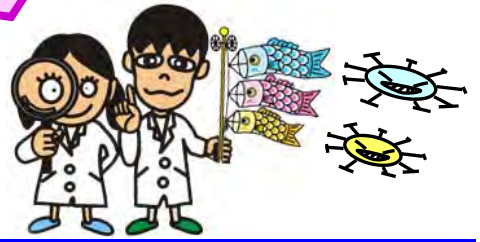
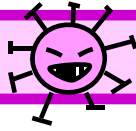


感染症に気をつけよう!

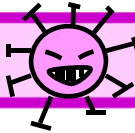
2017年【5月号】

横浜市内の感染症 流行状況



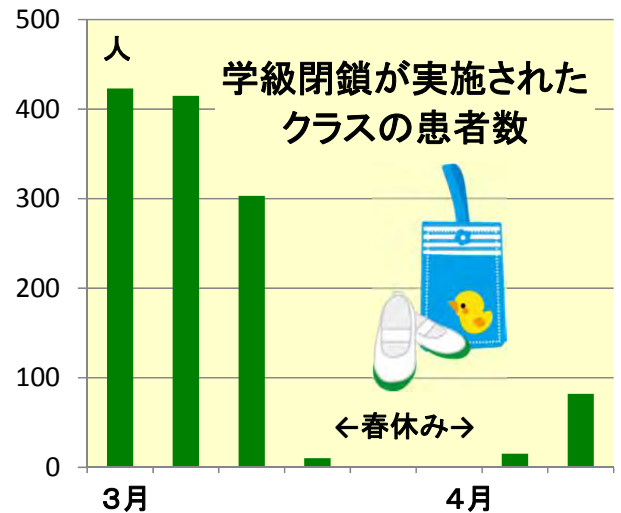
感染症	流行状況		説明 【解説付き既刊号】 ← クリック
	流行状況	流行状況	
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	🌟 やや流行	➡ 横ばい	昨年に引き続き、例年より報告が多い状態です。 最も有効な予防方法は、ワクチン接種です。【'16.6号】
インフルエンザ	🌟 流行	➡ 横ばい	流行は継続していて、B型が約8割を占めています。集団発生もみられ、引き続き注意が必要です。【'17.3号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真(3万倍)
※当研究所撮影

■ 市内では新学期が始まってから、再び、小学校を中心に学級閉鎖が報告されています。



■ インフルエンザは普通の風邪と違います。38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感などの症状が、

急に出ることが特徴です。

■ もし症状が出たら、咳エチケットを守り早目に受診してください。



■ 熱が下がっても人にうつす可能性があります。一般的には、発症後3~7日間は、鼻やのどからウイルスが排出されると言われています。

■ 他の人にうつさないためにも、無理をせず、学校や仕事は休みましょう。

